

通報・消火・避難訓練実施マニュアル

総合訓練フローチャート

訓練開始!

※()はタイトルNo.

現場の確認(★2-1)

自動火災報知設備の受信盤で発報区域を確認!
消火器, 携行ライト, 送話器等を持って現場へ急行!

火災発見!(★2-2)

「火事だー! 火事だー!」

現場状況を伝達!

通報(★3)

落ち着いて119番通報を!

初期消火(★4)

消火器を出火箇所に集結!
屋内消火栓も活用

避難誘導(★5)

明確に指示を!
出火箇所を避けて誘導

情報伝達(★3)

建物内の人に
自衛消防隊に
責任者等に

現場へ急行!

区画の形成・人員確認(★6)

残留者がいない事
を確認し, 防火戸
等を閉鎖!

搬送(★5-3)

自力で避難できない
人を避難場所まで搬送

消防隊に情報提供(★7)

逃げ遅れは?
出火箇所は?

避難場所に集合・待機

負傷者はいないか?
誘導は間に合っているか?

避難人員の確認

全員避難したか?

訓練終了

お疲れ様でした!

訓練実施検証

次回訓練への更新



消防隊到着!

119通報

消防署：はい、119番消防署です。火事ですか？救急ですか？

通報者：火事です。

消防署：場所はどこですか？

通報者：北区西が丘1-7-12、メディカルホーム赤羽2号館です。

消防署：建物の構造を教えてください。

通報者：鉄骨造の5階建てです。

消防署：近くに目標となる建物がありますか？

通報者：〇〇小学校です。

消防署：何が燃えていますか？

通報者：2階の浴室から出火しています。

消防署：逃げ遅れた方はいますか？

通報者：1階、2階は避難しました。3階に9名残っています。

消防署：あなたのお名前と電話番号を教えてください。

通報者：〇〇です。番号は3905-〇〇〇〇です。

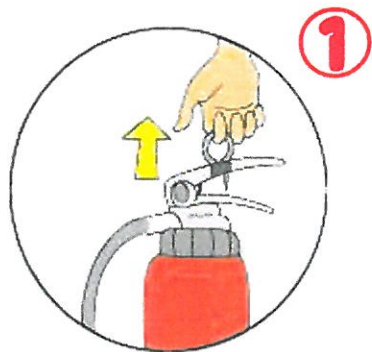
消防署：はい、わかりました。消防車向かいます。

消火器の使い方

消火器は、身近に見る機会も多いため、みなさんにとってなじみの深いものですが、実際に使ったことのある人は少ないと思います。さらに、火災が発生してしまったら気が動転して、簡単な使い方なのに使えないということもあります。万一の火災に備えて消火器の使い方を確認しておきましょう。

1 安全栓を上引き抜く ワン

必ず火元まで運んでから、安全栓を上引き抜きましょう
消火器を運ぶ場合、安全栓は出来るだけ火元の近くで抜きましょう。先に安全栓を抜いて、運ぶ途中にレバーを握ってしまったために消火薬剤が出てしまい、火元についたときには空になってしまったということも……。また、安全栓を抜かないとレバーが動かない構造になっていますから、レバーが固くて動かないと思ったら、落ち着いて安全栓がついたままでないか確認しましょう。



2 ホースをはずし火元に向ける ツー

ホースをはずし、ホースの先端を握り火元に向ける

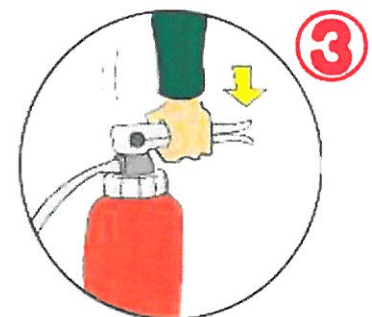
ホースの先端を握ると簡単にホースをはずすことができます。また、粉末消火器の湿気防止用キャップは圧力で外れるので取る必要はありません。



3 レバーを強く握る スリー

力のない人は、消火器を地面に立てて上から押しましょう

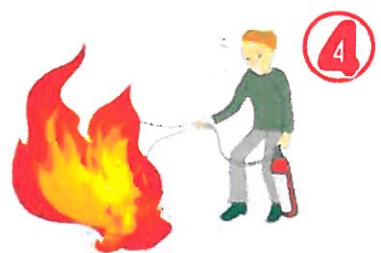
片手では重たくて力が入らない場合、加圧式で固くて握れない場合は、消火器を地面に立てレバーを上から体重をかけて押し出すと出やすくなります。



4 消火します

ほうきで掃くように消火します

消火薬剤が出始めれば、上の炎や煙ではなく、燃えている物に向けて、ほうきで掃くように左右にかけます。



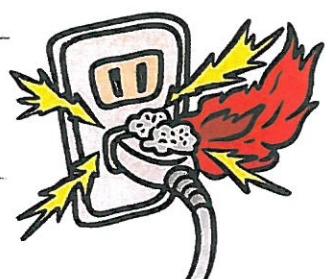
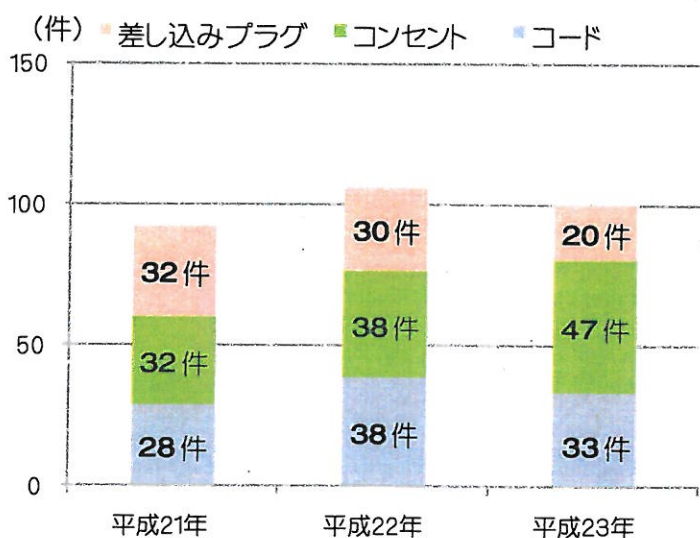
注意事項

消火器は、手軽なために初期消火に適していますが、使用できるのは炎が天井面に立ち上がる前までと考え、それよりも大きくなれば、屋内消火栓等を使用し、消火器以外に消火方法がなければ速やかに避難することが大切です！

6 コンセントの掃除を 心掛けましょう。

湿気の多い場所にあるコンセントに、ほこりがたまっていると、火災発生の要因になる場合があります。

また、コードを折れ曲がっている状態や束ねた状態で使用することや、長期間にわたって使用することによる経年劣化も火災の原因となることがあります。

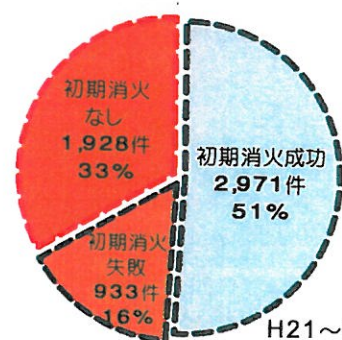


住宅火災における主な電気配線等の出火原因別件数

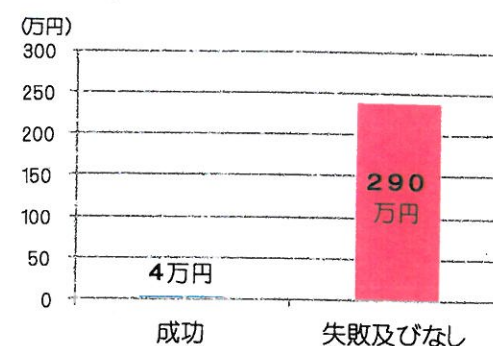
注 意 ポ イ ン ト

- 冷蔵庫やテレビの後ろなど、隠れている所も掃除する。
- 普段使用しない電気製品のコンセントは抜いておく。
- 電気コードが家具などの下敷きにならないようにする。
- テーブルタップは決められた容量で使用する。

9 万が一に備え、消火器を設置し 使い方を覚えましょう。



初期消火実施状況



平成23年中の初期消火状況別の平均損害額

毎年、住宅火災の6割以上で初期消火が実施され、そのうちの5割以上で消火に成功しています。

初期消火に成功すると火災による被害が大幅に軽減されます。

注 意 ポ イ ン ト

- 万が一に備え、消火器を設置し
使い方を覚える。
- 地域で行われる防災訓練に参加して
実際に消火器を使ってみる。
- 火災を発見したら
大声で周囲の人に知らせる。

消火器の使用方法

- ① 安全ピンを指にかけ
上に引き抜く。
- ② ホースをはずして
火元に向ける。
- ③ レバーを強くにぎって
噴射する。

消防機関以外へのお問合せ先は

社団法人 日本消火器工業会
株式会社 消火器リサイクル推進センター
TEL 03-5829-6773
FAX 03-5829-6774
(9:00~17:00 土日祝日、年末年始を除く)

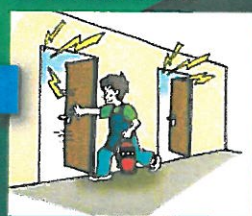
もしもの火災! 対応行動を頭に入れておきましょう。

■火災ではなかった場合



火災が発生してなくても、湯気や故障などにより、自動火災報知設備等が鳴動することがあります。このようなことが続く場合には、設備業者等に相談してみましょう。

■火災場所の確認



火災の疑いのある部屋に駆け付けます。このときには、消火器を執行します。

■火災室からの避難



火災室に自力で避難できない方がいる場合には、適切な介助により、一時的に火災室の外の安全な場所に避難させましょう。

■初期消火および戸の閉鎖



火災室に逃げ遅れ者かいないことを確認し、消火器などを使って消火をします。なお、炎が既に天井まで届いているなど消火が困難な場合は、避難を優先します。



火災室を離れるときには、火災を拡大させないように、ドアや引き戸を閉鎖することが大切です。

■火災覚知



火災を覚知したら(自動火災報知設備等が鳴動したら)、素早く行動を起こします。

■消防隊への情報提供



消防隊が到着したら、逃げ遅れ者やケガ人の有無など必要な情報を伝えます。

■火災室以外にいる者の建物外等への避難



火災の発生を呼びながら、逃げ遅れ者の有無を確認していきます。自力避難できない方などは、適切な介助を行います。



火事です! 避難してください!

■火災室にいた自力避難困難者の建物外までの避難介助



一時的に火災室の外に避難した方を、建物外の安全な場所まで避難させます。

■消防機関への通報



消防機関へ119番をして、必要な事項を速やかに伝えます(又は火災通報装置を起動します)。通報に関しては、この流れにどう変わることもなく、できるだけ早いタイミングで行って下さい。

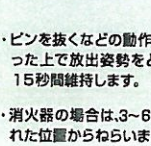
火災発生時の行動

万が一の備え 消防訓練を実施しましょう。

訓練実施の事前準備など

- 訓練中にケガをしないよう、心がけましょう
- 訓練は、避難が最も困難な状況を設定します
- 利用者が訓練に参加できないときは、職員が代役となるか、人形で代用しましょう
- 近隣に、非常時に協力してくれる方がいる場合は、一緒に訓練を行うと良いでしょう
- 自力で避難できない方がいる場合は、介助方法を事前に理解しておきましょう
- 訓練実施後は、良かった点や反省点を確認して、次回に活かしましょう

■実際に避難介助や初期消火・通報行動を短時間に行う訓練をしてみましょう



●ピンを抜くなどの動作を行った上で放出姿勢をとり、15秒間維持します。

●消火器の場合は、3~6m離れた位置からねらいます。

▼通報訓練

●119番受付員役



火事ですか、救急ですか? 火事です
場所はどこですか? 〇〇番〇〇〇〇丁目〇〇番〇〇号です
何が燃えていますか? 〇〇が燃えています

●通報者役



あなたの名前と、今かけている電話の番号を教えてください
私の名前は〇〇〇〇です
電話番号は〇〇〇〇〇〇〇〇です

実際に火災が発生したときには気が動転し、落ちついて避難できなくなる場合があります。あわてて一方的に話すとは正確に伝わらない上、時間もかかりますので、落ちついて動かれたことに正確に伝えていくと良いでしょう。ただし、通報している場所にも煙や火が拡大するなどの危険が迫っている場合は、すぐに避難しましょう。

自己チェックのポイント

- 訓練はケガなく、実施できましたか。
- 自動火災報知設備の作動等を受けた適切な対応が理解できましたか。
- 各部屋を確認し、火災場所の確認ができましたか。
- 火災場所の確認時には、消火器を執行しましたか。
- 消火器の使い方はわかりましたか。
- 適切に119番通報できましたか(又は火災通報装置の取扱いが理解できましたか)。
- 自力で避難できない方を適切に介助できましたか。
- 火災室を離れるときは、入り口のドアや引き戸を閉鎖しましたか。
- 逃げ遅れ者の有無を確認しましたか。
- 消防隊へ必要な情報を適切に伝えることができましたか。
- 近隣協力者との連携はうまくできましたか。

その他、気付いたことなどを皆さんで話し合いながら、万が一の火災に備えましょう!

消防訓練にあたって

ORIRO 緩降機

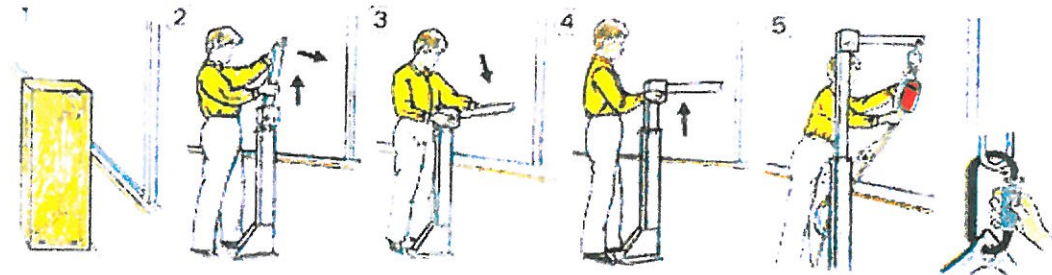
国家検定合格品
確かな安全性



高いところからでも安心

緩降機とは:
降下速度を一定の範囲に調整されたもので、使用者が他人の力を借らずに自重により自動的に連続交互に降下する器具です。

高い安全性
调速器が降下速度を調整するので、体重の軽重・降下距離にかかわらず一定の速度で降下することができます。
また、ワイヤーロープを芯にして強力な特殊繊維で外装していますので、高い強度・耐久性を持っています。

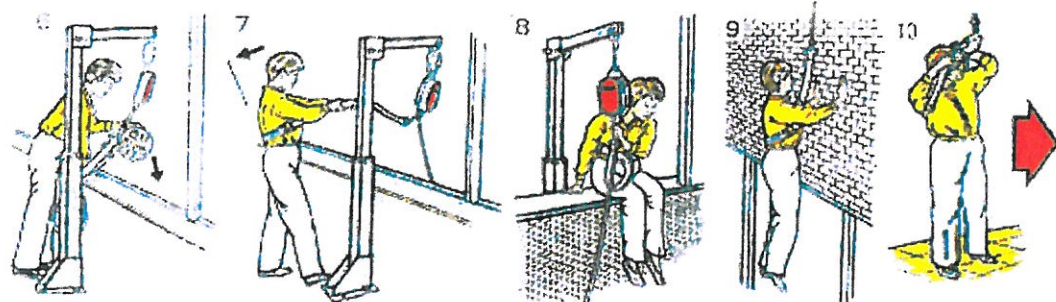


1
カバーを取り外します。

2
吊環をもって、アームを外に倒すように引き上げます。

3
両手で取手を持ち、ストッパーが作動するまで支柱を引上げます。

4
调速機のフックを吊環に掛け、安全環を確実に締めて確認します。



6
ロープの巻いてあるリールを外に投下します。

7
着用具を胴部に着用し、ヘルムを両手で持ち身体を後ろに倒すと、ヘルムが締まります。

8
2本のロープを持って外へ出て、身体を壁面に向けてロープをはなして降下します。

9
着地したら、上へ待っている人のために、素早く着用具をはずし、安全な場所へ移動してください。